

住宅・不動産

50兆円市場

住宅産業の現状

第1部 崩れる方程式 ②

「手形は持ってこれなかった。しかし、マンションデセんでした」。十一月二十八日、東京都江戸川区内の綻に伴い損失が発生するマンション建設現場。発注者として、十月にマンション業者であるモリモトの担当者、事業からの撤退を表明したの言葉に、若築建設の工事担当者も耳を疑った。

柱やハリが組み上がった上棟の日、工事代金の中間金として二億五千九百万円の手形を受け取る約束だったためだ。だが、同日、モリモトが東京地裁に民事再生法を申請した影響で手形は受け取れなかった。

若築建設の幹部は「だまされたようなもの」と憤りを隠さない。公共事業の削減で、同社が主力とする港湾工事など海洋土木は縮小を続け、マンションに活路を見いだそうと受注に動いたとされる。

しかし、数年前には「完成工事利益率で5%前後はとれる」とされたマンション

マンション頼みに誤算



金子国交相に建設業の苦境を訴える全建の浅沼会長

2008年の建設・不動産業の主な倒産

破綻の時期	企業名	負債総額(億円)
1月	六本木開発	1,340
4月	ケイアール不動産	1,678
6月	スルガコーポレーション	620
7月	ゼファー	949
	真柄建設	348
8月	アーバンコーポレイション	2,558
	りんかい日産建設	630
10月	ニューシティ・レジデンス投資法人	1,124
	ダイナシティ	521
	新井組	427
11月	オリエンタル白石	605
	モリモト	1,615

(東京商工リサーチまとめ)

会長(浅沼組)は金子国交相と一義国交相と向き合っている。「もう公共事業の予算削減は限界。ゼネコン首脳の多くが住宅市場の低迷に身構えている。景気減速の本当の影響は一年後に現れる」と(鹿島の金子宏副社長)。「底の見えぬ市場の冷え込みが警戒感に強まるばかりだ」。

ゼネコン「底なし」警戒

ン建設は今や最も資金回収リスクが高い事業の一つ。あるのだが……。同社の幹部の胸中は複雑だ。競争価格放棄などを受けた後、マンションブームの波に乗って二〇〇七年度に十三年ぶりに復配を果たした長谷工コーポレーション。一〇%を超える利益率を確保していたマンション建設の最大手にも、異変が起き

「やろうと思えば仕事は情報付き案件から、優良案をの土地に長谷工にできるだけコストを抑えて上物を建ててもらおうとするケースが多い。これまでの高収益の「方程式」が成立しづらくなっている。

中小建設会社の経営も一段と厳しさを増している。十一月二十七日、来年度予算編成を控えて陳情の来客が出入りする国土交通省四階の大臣室内で、全国建設業協会(全建)の浅沼健一

「こんな状態は年度当初には想像できなかった。公共事業の市川正美社長」と、ゼネコン首脳の多くが住宅市場の低迷に身構えている。景気減速の本当の影響は一年後に現れる」と(鹿島の金子宏副社長)。「底の見えぬ市場の冷え込みが警戒感に強まるばかりだ」。

問一万件ともいわれる土地で減った。しかも、最近持

ち込まれる案件は、自社保有の土地に長谷工にできるだけコストを抑えて上物を建ててもらおうとするケー

スが多い。これまでの高収益の「方程式」が成立しづらくなっている。

中小建設会社の経営も一段と厳しさを増している。十一月二十七日、来年度

予算編成を控えて陳情の来客が出入りする国土交通省四階の大臣室内で、全国建設

業協会(全建)の浅沼健一、会長(浅沼組)は金子国交相と一義国交相と向き合っている。

「もう公共事業の予算削減は限界。ゼネコン首脳の多くが住宅市場の低迷に身構えている。景気減速の本当の影響は一年後に現れる」と(鹿島の金子宏副社長)。「底の見えぬ市場の冷え込みが警戒感に強まるばかりだ」。

「こんな状態は年度当初には想像できなかった。公共事業の市川正美社長」と、ゼネコン首脳の多くが住宅市場の低迷に身構えている。景気減速の本当の影響は一年後に現れる」と(鹿島の金子宏副社長)。「底の見えぬ市場の冷え込みが警戒感に強まるばかりだ」。

「底の見えぬ市場の冷え込みが警戒感に強まるばかりだ」。

「底の見えぬ市場の冷え込みが警戒感に強まるばかりだ」。

「底の見えぬ市場の冷え込みが警戒感に強まるばかりだ」。

「底の見えぬ市場の冷え込みが警戒感に強まるばかりだ」。

「底の見えぬ市場の冷え込みが警戒感に強まるばかりだ」。

「底の見えぬ市場の冷え込みが警戒感に強まるばかりだ」。

「底の見えぬ市場の冷え込みが警戒感に強まるばかりだ」。